

〔教育実践研究報告〕

セルフマネジメントについての学生の学びと看護専門職における意義

両 羽 美穂子      篠 田 征 子      林      由美子      上 野 美智子  
栗 田 孝 子      宮 本 千津子      岩 村 龍 子      大 川 眞智子  
池 西 悦 子      堀      ひろみ      奥 井 幸 子

Learning in the Introduction to the Management in Nursing and  
Efficacy of Self-management for Professional Nurse

Mihoko Ryouha, Masako Shinoda, Yumiko Hayashi, Ueno Michiko,  
Takako Kurita, Chizuko Miyamoto, Ryuko Iwamura, Machiko Ohkawa,  
Etsuko Ikenishi, Hiromi Hori, and Yukiko Okui

はじめに

本学1セメスターの開講科目である機能看護学概論は、8つのキーワード「自律・自治・責任・意思決定・人間観・健康観・価値観・世界観」によるセルフマネジメントの理解を目的に授業を展開している。これらのキーワードはセルフマネジメントを特徴付ける要素として我々が実践経験の中から独自に提示したものである。この1年次の前期に学修する機能看護学概論（セルフマネジメント）を基礎に、その後に開講される方法1（キャリアマネジメント）、方法2（組織とマネジメント）、方法3（トップマネジメント機能）、方法4（看護情報学）、演習（看護情報学演習）を学修する過程でそれぞれの科目の融合・統合を繰り返し、「一人ひとりがよい看護をする、組織がよい看護をする、生涯にわたり成長し続ける人材を育成する」という機能看護学の目的が達成されることを目指している。また、セルフマネジメントという概念を看護基礎教育に取り入れたのは本学が初めてであり、開講年度から始まった取り組みについては、2001年、2002年の紀要<sup>1,2)</sup>で報告している。

3年目になる今年度の新しい試みとして、「世界観」というキーワードも用いたこと、また、これまではキーワードの理解に時間がかけられ、セルフマネジメントについては十分に検討するまでは至らなかった<sup>3)</sup>という反省から、開講当初と中期にセルフマネジメントについて

の意味を自分のことばで表現するということを導入した。そして最後に看護職としてのセルフマネジメントの意義について学生の考えをまとめることができたので、機能看護学概論でのセルフマネジメントについての学生の学びを明らかにし、看護基礎教育における本科目の意義を確認したい。

I. 目的

授業進行に伴い、セルフマネジメントについてどのような学生の学びがあったのかを明らかにするとともに、看護基礎教育における本科目の意義について考察する。

II. 方法

1. 対象

授業2回目、10回目に課題を提示し、それぞれ授業3回目、11回目に提出した「私の考えるセルフマネジメント」の課題レポート（以下前者を早期レポート、後者を中期レポートとする。）および15回目に提出した「看護職にとってのセルフマネジメントの意義について」の最終課題レポート（以下最終レポートとする。）80名分。

2. 分析方法

1) 早期レポート、中期レポート

課題レポートの記述から、その意味内容を読み取り、まとまりのある意味内容ごとに1件として、その内容を

分類整理する。

## 2) 最終レポート

記述内容を熟読し、意味内容を分類整理した。

データの抽出と内容分類は、まず、研究代表者が行い、それをもとに、共同研究者間で再検討を行った。

## 3. 倫理的配慮

学生の課題レポートを研究目的に使用することについては、研究目的の説明とともに、個人にとっての不利益をこうむるものではないこと、プライバシーの保護への配慮、また、研究への同意の有無が成績等に影響するものではないことを口頭で説明するとともに、文書により伝え、説明を受けた全員に同意書の提出を依頼した。

同意書は、同意する場合、同意しない場合、保留の場合ともに記入できるようにし、提出の段階で他の学生に本人の意思が明らかにならないように配慮した。

## Ⅲ. 機能看護学概論の構成

### 1. 機能看護学概論の目的

機能看護学では、人として、看護専門職として生涯にわたり自己の能力を開発・発展させることを出発点に、看護の発展及びその社会化に貢献できる能力を身につけることを目的としているため、その出発点であるセルフマネジメントについて学修することとした。

### 2. 学習テーマと方法

各回の学習テーマと方法について表1に示す。早期レ

表1 機能看護学概論の授業テーマと方法

- |   |
|---|
| 1. 教養教育の意義（講義）                              |
| 2. 看護学の理解（講義）＊前期レポート課題「私の考えるセルフマネジメント」提示    |
| 3. 人として、専門職としての成長・成熟(グループワーク)<br>＊前期レポート提出  |
| 4. 人として、専門職としての成長・成熟(グループワーク)               |
| 5. 人として、専門職としての成長・成熟(グループワーク)               |
| 6. 中間発表                                     |
| 7. 学外演習による看護・看護職の理解                         |
| 8. 交流ワーク                                    |
| 9. 看護専門職の理解（講義）＊中期レポート課題「私の考えるセルフマネジメント」提示  |
| 10. 学外演習による看護・看護職の理解                        |
| 11. 人として、専門職としての成長・成熟(グループワーク)<br>＊中期レポート提出 |
| 12. 人として、専門職としての成長・成熟(グループワーク)              |
| 13. 人として、専門職としての成長・成熟(グループワーク)              |
| 14. 最終発表                                    |
| 15. 試験：最終レポート課題「看護職としてのセルフマネジメントの意義」        |

ポートは、教養教育の意義および看護学の理解をテーマにした講義の後、課題を提示した。グループワークでは、各グループが前回の8つのキーワードの中から1～2つのキーワードを担当し、この事前課題での自分の考えを基に、キーワードからセルフマネジメントについて考えていった。中間発表では、担当したキーワードの概念理解や話し合ったことを中心に発表し、全体で共有した。その内容を表2に示す。交流ワークでは、他のキーワードとの関連が考えられるようにテーマを設定し、各グループのメンバー各々が担当するキーワードに関連するテーマを選び、そのテーマについてのグループ討議を行った。交流ワークのテーマと検討内容について表3に示す。後半のグループワークでは、講義、交流ワーク、学外演習での実体験から、キーワードの概念の定義を行い、他のキーワードも関連させながらセルフマネジメントについて考えていった。最終発表での各キーワードの定義を表2に示す。グループワークは、各グループを1～2名の固定された教員が担当した。ここで重要視したことは、グループワークがセルフマネジメントの実践であると位置づけ、学生の主体的な参加を促すように配慮したことと、教員が学生とともに学ぶ姿勢に関わることである。

## Ⅳ. 結果

### 1. 授業早期に学生が考えたセルフマネジメント

早期レポートは2回の講義を終了した時点で課題「私の考えるセルフマネジメント」を提示し、次回の授業までに文献等を参考にして自分の考えを自分のことばでまとめるように指示した。その結果、考えの根拠となる資料には、辞書、文献、インターネットを使用しており、表4に示すように大きく6つに分類できた。以下は大分類を【】中分類を『』で示す。

【自己を知って望ましい状態を保つために主体的に取り組む行動の調整】は、『自己を知って主体的に責任をもった体や行動の自己管理』『望ましい状態を保つため自分の考えや行動をコントロールすること』『自分を律すること』の3つの中分類から構成されている。【問題解決・課題達成の自己の取り組み方】は、7つの中分類から構成されており、『自分で問題を見付けること』『物事を自分の問題として捉えること』『自分で目標を立て

表2 中間発表での各グループキーワードの定義および検討内容と最終発表での各キーワードの定義

グループ キーワード	中間発表での各グループのキーワードの定義 および検討内容	最終発表でのキーワードの定義
自律	自律：自分で決めた規則に従う 自律, 自立, 自治の違いについて検討	目標や目的をもって, 自分の中で規則を作って行動すること
自治		目標に向かって組み立て, 順序を決める. 自分で判断し, 処理すること
責任	重くのしかかる責任, マイナスのイメージ (文献より) (西洋では) 約束に対する応答, 保障	自分以外のすべてに対して, それと関係を保ち, 良くするために, 目的・目標をもって, 決められたことを行うこと
意思決定	・あることを達成するために, 複数の選択可能な代替手段の中から最適なものを選ぶこと・自分の目標を達成させるために, 複数の選択肢の中から最適なものを選ぶこと	各個人が目的を達成するために複数の選択肢の中から世界観, 人間観, 価値観とそのときの状況を踏まえて, 最適なものを選択すること
人間観	“人間”って何? 人間と動物の違いは? 人間には言葉がある, 抑制する心がある, 目的意識, 向上心がある心, 空間が読める (感性がある) など	・人によってもとらえ方が違うもの ・周りの人がその人の人間性をどのように考えているか ・人間を価値というフィルターを通してみること
健康観	・生きている時だけでなく, 死にも関係がある・良い死に方も健康 (尊厳死など) ・与えられた条件で最適に生き, 最後に死が考えられる・生と死はきり離せない	一人ひとりの健康に対する考え
価値観(1)	ものの捉え方, 人それぞれの価値を決めるもの, 社会的価値をもとにした人それぞれのとらえ方, 他人には変えられない	社会的価値をもとにした人それぞれのとらえ方
価値観(2)	価値を個人が評価したもの ・個人個人がもっている物事に対する値打ちのようなもの, ものさしのようなもの・何に重点をおいて考えているのかということ, 意思決定や評価のもとになるもの	価値をもとに何を重要と考えるか. 意思決定のプロセス
世界観	世界観と価値観; 比較したときに考えた世界観 ・客観的, 認識的, 主体的, 実践的・意味づけ, 関係づけ・ひとつの大きいこと・統一的で全体的な理解・全体・一定の見解や解釈 (自然, 社会, 人間の諸関係) ・評価はない ほか	世界の見方, 世界を見て感じたこと

\*自律, 自治は2つのキーワードを1グループで担当した。

表3 交流ワークのテーマと検討内容

交流ワークテーマ	検討内容
患者取り違え事故を私はこう考える	責任をもって仕事をするのが大事. 指示された仕事だけをするのではない. 職種による責任の重さに違いがあるのだろうか.
無脳児としての存在の意味は何か	学外演習やその他の障害者とその家族にまつわる実体験から無脳児の存在の意味を考えた. 生きる意味を他者が認めている場合がある. だから生きていける. 障害があることで虐待される子どももいる. 子どもはかわいくて当たり前という考え. 障害があるために, 愛したいのに愛せない.
集団の中での個人のありかた	集団における価値観の違いが関係する. 職種によっても価値観が違う. 個人が責任を持つ必要がある. 価値観の違いにより抑制などの判断が違っていいのだろうか.
人は何によって行動するのか	役割・立場に対する責任ではないか. 価値観が関係するのではないか. 行動を起こすためには, 自律した個人が人間観・世界観・価値観をもとに意思決定し, 行動に移すという過程がある.
病気や障害は不幸か	障害を持っていることは不幸だと思っていたが, 障害をもっても幸せに暮らしている人はいっぱいいる. 周囲の人の理解や環境が大切だ. 生きがいをもつことや, 自分の世界をもつことで楽しんでいる人がいる. 障害をもっている人は不幸ではない.
平和と紛争	平和と紛争は人が生きることに関係している. 価値観・世界観・人間観が関係している. 身近なことと言えば意見の衝突がある. 戦争時でも看護は他者のことを考え, 平等に接する. 看護の現場の紛争の中で, 看護がよりよいものになってきた.
選択肢が複数あるとき何を基準に決めるのか	判断で何を優先させるかは“個人のものさし”つまり, 人生観, 健康観などが関係している. 道徳心といった自分のルールに基づいたもの「自律」が必要である. 選択肢を増やすのは専門職の役目であり責任である. 意思表示できない人の場合, 周囲の人は何を基準に判断するのだろうか.
生きる力をどう育てるか	生きる力=人として生活する能力とは違うのではないか. 生きようとする力も価値観・世界観により違う. 生きる力は自立. 子どもや障害者にとってはどう考えたらよいか. 人間観と関係している.

ること』『目標を達成すること』『問題を解決していくこと』『最後までやり遂げること』『能力を最大限に発揮すること』を含んでいる. 【自己決定における主体的な行動と責任性】は, 『自己決定すること』『自己決定し行動

すること』『主体的に行動を起こすこと』『自分に責任をもつこと』の4つ, 【自己の体や内面を理解し限界を自覚すること】は, 『自分の体や内面を理解し限界を自覚すること』『自分を理解しようとする姿勢のこと』の2

表4 学生の考えるセルフマネジメント

早期レポート				中期レポート			
大分類	中分類	小分類		大分類	中分類	小分類	
自己を知って望ましい状態を保つために主体的に取り組む行動の調整	自己を知って主体的に責任をもった体や行動の自己管理	自分を管理する		目的をもって主体的に取り組む行動の調整	主体的に責任をもった体や行動の自己管理	自分を管理する	
		自分の行動を主体的に管理				自分の行動を管理する	
		できる限り努力して自己管理				健康管理する	
		自分を振り返って自己管理				健康・生活・環境を管理する	
		自分を理解して自己管理				自分の意志で自己管理する	
		責任をもった自己管理				目標達成のために自己管理する	
		体の自己管理				責任をもって自己管理する	
		健康の自己管理				目的のために自分をコントロールすること	目標を達成するために自分を管理し、コントロールする
		病気や障害の自己管理				健康維持のために自分の行動をコントロールする	
		健康管理の具体的方法				社会で生きていくために自分をコントロールする	
	望ましい状態を保つため自分の考えや行動をコントロールすること	自分をコントロールする		問題解決・課題達成への主体的な取り組み方	自分で問題解決すること	自分から課題を見つける	
		時間・健康・精神力を自分でコントロールする				常に前へ前へと目標をもつ	
		身体的、精神的、生活などをコントロールする				目標を立てて行動すること	目標を立てて行動する
		考えや行動をコントロールできる能力				目標を達成するために進んでいくこと	目標を達成するために進んでいく
		無理せず努力して自己を保つ				主体的に問題解決する	
	自己を律すること	望ましい状態を保つ		能力を最大限に発揮すること		積極的に問題解決する	
		自分を律する				責任を持って自立的に問題解決する	
		自分でルールを定める				最大限の努力をする	
		問題に対して自分を律する				能力を最大限に発揮させる	
						機能を十分生かして生活する	
問題解決・課題達成の自己の取り組み方	自分で問題を見付けること	自分で問題を見付ける		自己決定に基づく主体的行動と責任性	自己決定すること	自分に必要なことを最大限の力で行動する	
		物事を自分の問題として捉えること	物事を自分の問題として捉える			自己決定する	
		自分で目標を立てること	自分で目標を立てる			責任をもってよりよい決定をする	
	目標を達成すること	目標を達成する				自分の価値観に基づいて決定する	
		目標達成のため自分を管理する				状況に合わせてよりよい選択をする	
		目標に向かって努力する				さまざまな情報の中から自己決定する	
	問題を解決していくこと	自分で健康問題に取り組む				今後のことを考え何が必要かを判断し、自己決定していく	
		対象が問題を解決していく				自分の生きる道を選択していく	
		最後までやりとげること	できる範囲でやりとげる			情報や方法を選択していく	
	能力を最大限に発揮すること	能力を最大限に発揮する				患者にとって最良の看護方法を選択する	
					自分で選択（判断）し、実行すること	自分で選択（判断）し、実行する	
						最善のものを自分で選択、実行する	
						価値観・責任・目的に合わせて選択、実行する	
自己決定における主体的な行動と責任性	自己決定すること	自己決定する			自らの行動すること	場合や状況に応じて適切な考えをもち、行動に表せる	
		自分で考え判断する				自分がやりやすいような自分独自の方法を考え、実行する	
		治療方法の自己決定				自分の健康維持や向上のために考え、実行する	
		人生を自己決定する				自らの行動すること	
	自己決定し行動すること	自分で考え、判断し、行動する			自分の決定や行動に責任をもつこと	状況をよくするために自らの行動する	
		主体的に行動を起こすこと				責任を果たす	
		患者が主体的に行動を起こす				行動に責任をもつ	
		自分に責任をもつ				自分の決定に責任をもつ	
	自分に責任をもつこと	自分の行動に責任をもつ			主体的に自分を理解していくこと	自分の決定に責任をもって行動する	
						自分のできることを責任をもってする	
						自分を理解する	
						自分自身について考える	
自己の体や内面を理解し限界を自覚すること	自己の体や内面を理解し限界を自覚すること	自分を理解する		自己を高め成長させていくこと	自分の体や内面を理解し能力や限界を把握すること	自分の体調や性格を知る	
		自分の体、心を理解する				自分の現在の体調、環境を把握する	
		自分がしたいことを理解する				自分の能力や限界を把握する	
		自分の限界を自覚する				自分の機能・役割を把握する	
		患者が病気を理解する				自分自身の価値観を理解する	
	自分を理解しようとする姿勢のこと	自分の体や病気を理解しようとする姿勢			自分を高め成長させていくもの	自分で考え、行動することで自分を理解していく	
						自分を高めていく	
						自分を向上させようと努力する	
						自分自身で絶えず問い続け、成長する	
						自分の能力や価値観を高める	
よりよい人生の追求	自分を成長させること	自分を育てていく			自分の信念に従った前向きな生き方	他者と積極的に協力・交流することで自分を高めていく	
		自分らしく生きる				自分を高めて、成長させていくもの	
		自分に合った行動をとる				自分の人生をよりよくする	
		自分に合った生活をおくる				よりよく生きるために選択し実行する	
		生活をよりよくするもの				助けを得ながらよりよく生きようとする	
	生活・人生をよりよくするもの	人生をよりよくするもの		自己の信念に従ってよりよく生きること	自分の信念に従った前向きな生き方	よりよく生きるために自分をコントロールする	
		よりよいものを追求する				環境に応じよりよい生活を送る	
		毎日自分から笑顔が消えないようにする				助けを借りながら生きていく	
		価値ある生涯のため健康についての考えをもつ				自分の信念を守って生きていく	
						目標達成のために健康をイメージしながら生きていく	
	効果的に生きること	効果的に生きる			生き続けるために必要とされる能力	前向きに考える	
						自分で自分を守る	
						人生の楽しみをもつ	
						自分の世界を広げていく	
						生き続けるために必要とされる能力	
他者に目を向けサポートすること	自分の生活や自分自身を守る	自分の生活や自分自身を守る		環境への働きかけとその利用	環境づくり（自分も含めた環境）	自分に適した環境を整える	
						判断するための環境や自分を自分で作る	
						健康促進のための環境づくり	
						自分の力を発揮するための環境づくり	
						環境を利用すること	
	周りの環境や自分の状況に適應すること	社会に適應できるようにする			協力を得ること・連携すること	自分を取りまわり環境を最大限に利用する	
		環境の変化に適應する				時にまわりの協力を得る	
		病気に適切に対応する				自分で出来ないことは誰かに助けを求める	
						連携も取りながら一つのものを作り出していく	
						他者に対して影響力を与えることができる力、援助できる力をもつ	
他者に目を向けること	看護の対象をサポートすること	看護の対象が適切なサービスを利用できるようにサポートする		必要に応じ他者と協働していく力	他者への働きかけ	自立できるように働きかける	
		看護の対象が自己管理できるようにサポートする				対象者が自己決定できるように導く	
						自分で自分の体について知るよう働きかける	
						問題や異常を早期に見出す姿勢	
						常に専門職者であり続ける	

表5 最終課題レポート

例1：看護職者は、自治の中に存在する。自律した人間である。現状から意志が生まれ、意志に対する目的が生まれ、目的に対する目標が生まれる。その目標には世界観、人間観、健康観、価値観が影響する。そこから選択肢が出て、その中から意思決定を行い、行動し、行動すると結果が現れる。その結果は目的に対してどうであったかを自己評価を行い次につなげるのがセルフマネジメントでそれらすべてに責任がかかるので、セルフマネジメントは非常に重要であるとする。

例2：看護職者一人ひとりが自分自身を見つめ、それから自分を越えたところにある外界、対象やその周りの環境を見つめる（世界観）ことによって、2つの重なった部分が深まり、看護職者自身の中で一貫性を持った自分の幹のようなものがつくられる（自治）。この幹を基盤として、状況に応じて柔軟に自分をコントロールすることが出来て（自律）こそ、はじめて、対象である人間に対して影響を与えることができる。また対象からも影響を与えられ、お互いに相互作用をして、お互いを高めていくことができる。セルフマネジメントは看護職者にとって必要である。

例3：看護職者にとってセルフマネジメントは、看護職が専門的知識・技術をもって、個々の健康問題に自らが判断し（意思決定）、対処していくこと、そして、社会背景によって絶えず変化している看護について問い、看護の質を向上させていくことを手助けできると思う。また、対象者のニーズに応え、かつ、対象者の力を大いに引き出し援助した、よりよい看護を提供できるように促すものと考えた。そして、看護職者としての成長につなげ、1つの問題をいろんな視点から捉えられるようになると思う。

注：下線、（ ）内筆者加筆

つから構成されている。【よりよい人生の追求】は、7つの中分類から構成されており、『自分を成長させること』『自分らしく生きること』『生活・人生をよりよくするもの』『効果的に生きること』『自分の生活や自分自身を守ること』『周りの環境や自分の状況に適応すること』『いろいろなサービスを利用できること』を含んでいる。【他者に目を向けサポートすること】は、『看護の対象をサポートすること』『他者に目を向けること』から構成されている。

## 2. 授業中期に学生が考えたセルフマネジメント

中期レポートは、学外演習での体験事例や講義で使用した事例など具体的な看護の事例や交流ワークでの検討内容から考えた学生がほとんどだった。その結果、表4のように大きく9つに分類できた。

【目的をもって主体的に取り組む行動の調整】は、『主体的に責任をもった体や行動の自己管理』『目的のために自分をコントロールすること』から構成されている。【問題解決・課題達成への主体的な取り組み方】は、5つの中分類から構成されており、『目標を立てること』『目標を立てて行動すること』『目標を達成するために進んでいくこと』『自分で問題解決すること』『能力を最大限に発揮すること』を含んでいる。【自己決定に基づく主体的行動と責任性】は、『自己決定すること』『自分で選択（判断）し実行すること』『自ら行動すること』『自分の決定や行動に責任をもつこと』の4つから構成されている。【主体的に自分の体や内面を理解し能力や限界を把握すること】は、『自分の体や内面を理解し能力や限

界を把握すること』『主体的に自分を理解していくこと』、【自己を高め成長させていくこと】は、『自分を高めていくこと』『自分を成長させていくもの』から構成されている。【自己の信念に従ってよりよく生きること】は、『よりよく生きるための手段・方法』『自分の信念に従った前向きな生き方』『生き続けるために必要とされる能力』の3つ、【環境への働きかけとその利用】は、『環境づくり（自分も含めた環境）』『環境を利用すること』から構成されている。【必要に応じ他者と協働していく力】は、3つの中分類から構成されており、『協力を得ること・連携すること』『他者に対する力』『他者への働きかけ』を含み、【専門職としての取り組み方】は、『専門職としての取り組み方』から構成されている。

## 3. 学生が考えた看護職としてのセルフマネジメントの意義

最終レポートは、課題をシラバスに示すなど事前に提示して、最終回に資料等持ち込みを許可し、試験として時間内に記述したものである。学生レポートの一例を表5に示す。記述内容からセルフマネジメントの意義は3つに大別でき、例1のように8つのキーワードをすべて関連させ看護専門職としてのあり方につながると考えた学生や、例2や例3のように、人や看護専門職としての成長や例3のように、看護の質の向上につながっていくのだと考えた学生がいた。

## V. 考察

### 1. セルフマネジメントについての学生の学び

早期レポートと中期レポートを比べると中期レポートの方は、【環境への働きかけとその利用】や【必要に応じ他者と協働していく力】のように、自分自身から他者・社会環境も含めた働きかけや協働という広がりや【自己決定に基づく主体的行動と責任性】のように意思決定や責任といったキーワードに関連したもの、また、【自己を高め成長させていくこと】のように自己の成長につながるという考えに広がりが見られた。これは、中間発表や交流ワークですべての学生がすべてのキーワードに触れたことが影響し、中でも「世界観」という日頃使い慣れない概念を知ったことや、学外演習で現場の看護職の姿を見たことが大きく影響していたと思われる。後半のグループワークでは、キーワードの概念定義とすべてのキーワードからのセルフマネジメントの理解へと進めたことにより、最終発表では、キーワードの定義が明確になり、責任ある自律した行動により、看護の質の向上と自己の成長につながるという看護職におけるセルフマネジメントの意義へと学びを深めていくことができた。これは、抽象的な概念を体験などの具体的事象に照らし合わせ、自分のことばで表現し、グループワーク等で考えを広げた後に、再度抽象的な概念として捉えなおし、自己に取り込むことができた成果であると考えている。

## 2. 看護職におけるセルフマネジメントの意義

機能看護学概論ではセルフマネジメントの理解に「自律・自治・責任・意思決定・人間観・健康観・価値観・世界観」の8つのキーワードを使っているが、これらの概念には「自律・自治・責任・意思決定」のように直接行為につながってくるものと、「人間観・健康観・価値観・世界観」のように行為の決定に至る価値や認識を示すものがある。つまり、これらのキーワードは、看護専門職としての行為を決定する要素であり、看護職におけるセルフマネジメントの意義へと学生の理解を導くと考えている。

専門職に関する文献の中でドラッカー（Drucker, P. F.）は、組織における自分の貢献を考え、自らが意思決定し、その決定に責任をもって行動していける自律性を有していることを専門職の条件としている。中でも成果を求め、自らの貢献を考えることを強調しており、貢献していくためには自分の強みを知り、成長していかなければならない<sup>4)</sup>と述べている。学生のセルフマネジメ

ントの学びがこのような専門職の条件と一致していることから、セルフマネジメントは看護職が専門職であるための条件であることは理解できたと考える。

また、セルフマネジメントの中核とも言える自律に関する先行研究の中で小谷野は「看護婦の自律性 autonomy とは、看護の対象者の自立・自律を実現できるよう援助する自律性である。」<sup>5)</sup>と述べている。このように看護専門職の自律には、看護の対象者のことも関係しているが、セルフマネジメントの意義として専門職としてのあり方や自己の成長に加え、看護の質の向上につながることも考えられていた。

## 3. 看護基礎教育における本科目の意義

ロジャース（Rogers, M. E.）は、看護の専門職としての自律性を法的に認めさせるために長いあいだ闘ってきた経緯があり、20世紀の看護の発展に寄与してきた。そして、自律した看護専門職の責任として次のように述べている。「看護婦は時代に先がけて人々のニーズに合ったヘルスサービスを提供していくために、強力かつ創造的なリーダーシップを発揮する大きな責任を負っている。」<sup>6)</sup> また、菊池らは「看護職が専門職となるためには高度な看護の技術や理論体系を持ち、看護職一人ひとりが専門的な知識・技術に裏づけられた看護実践に取り組むことを通して、職業としての自律性を高めていくことが今日要求されている。」<sup>7)</sup>と述べており、先述した機能看護学の目的と一致している。このように看護専門職における自律は看護の発展における長年の課題であり、セルフマネジメントについて看護基礎教育として学修することは看護の発展に大きく貢献できると考える。

## まとめ

機能看護学概論でのセルフマネジメントについての学生の学びを明らかにし、看護基礎教育における本科目の意義を確認するため、学生のレポートをもとに検討した。その結果、学生は責任ある自律した行動により、看護の質の向上と自己の成長につながるという看護職におけるセルフマネジメントの意義へと学びを深めていた。そして、セルフマネジメントは看護専門職としてのあり方につながるため、看護基礎教育として学修することに意義があると考えられた。

## おわりに

機能看護学概論は入学当初から始まり、最終学年まで続く機能看護学の科目と照合しながら融合・統合を繰り返し、機能看護学の目的に近づくための主柱であると考えている。そのため、今回明らかになったセルフマネジメントについての学生の学びを今後の機能看護学方法に反映させていきたい。

## 引用文献

- 1) 池西悦子, 宮本千津子, 林由美子ほか: キーワードを活用した授業による学びの分析－セルフマネジメント能力の育成を目指して－, 岐阜県立看護大学紀要, 1(1); 66－72, 2001.
- 2) 宮本千津子, 上野美智子, 栗田孝子ほか: セルフマネジメントを主題とした授業の展開と課題, 岐阜県立看護大学紀要, 2(1); 175－181, 2002.
- 3) 前掲2).
- 4) Peter F. Drucker: To Perform, To Contribute and To Achieve, 2000, 上田惇夫編訳, プロフェッショナルの条件－いかに成果をあげ, 成長するか－, ダイヤモンド社, 2001.
- 5) 小谷野康子: 看護専門職の自律性に関する概念の検討と研究の動向, 聖路加看護大学紀要, 26; 50－58, 2000.
- 6) Violet M. Malinski et al: Martha E. Rogers Her life and Her Work, 手島恵監訳, マーサ・ロジャーズの思想, 初版; 203－216, 医学書院, 1998.
- 7) 菊池昭江, 原田唯司: 看護専門職の自律性に関する研究－基本的属性・内的特性との関連－, 看護研究, 30(4); 23－35, 1997.

(受稿日 平成15年3月5日)